

厚生労働科学研究費補助金（がん政策研究事業）  
分担研究報告書

将来に亘って持続可能ながん情報提供と相談支援の体制の確立に関する研究

研究分担者 田村 和夫 福岡大学総合医学研究センター 教授

研究要旨

2017 年度に続いて、がん情報を提供するための体制のさらなる確立に向け、日本がんサポーターズケア学会を代表して参加・検討した。

A. 研究目的

がんに関連した症状・兆候ならびに支持・緩和医療領域の情報を継続的に発信できるように日本がんサポーターズケア学会（JASCC）が実施できることを検討する。

B. 研究方法

研究班あるいは国立がん研究センター（NCC）・情報センターで作成された、がんやがん治療に関連した吐き気、発熱、痛み、神経障害に関する情報を JASCC の関連部会で査読し、必要な情報を提供する。

C. 研究結果

JASCC のCINV 部会が「吐き気」、FN 部会が「発熱」、痛み部会が「痛み」、神経障害部会が「しびれ」について review し、コメントをつけて報告した。さらにこれら掲載先である NCC 情報センターとは、JASCC の部会が中心となって査読等、協力する覚え書きを交わした。

D. 考察

NCC と JASCC を含むがん関連の学術団体が連携してがん情報を作成・改訂する体制を整えることが、質の高いタイムリーながん情報を継続的に発信できる基盤となる。

その先駆けとなる 4 つの症状について今回、速やかな対応ができたことは、本班の目的の一つを達成できる可能性を証明した。今後、情報の作成・発信と同時に user である患者・家族、がん関連団体の参加を得て、作成されたがん情報の適切な評価を行い、作成者にフィードバックするシステムを築いていくことが求められる。

E. 結論

継続的に日本がんサポーターズケア学会が本研究に参加・支援していく。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表 1. 論文発表 2. 学会発表

（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得 2. 実用新案登録 3. その他

なし